

令和3年度第1回佐伯市総合教育会議議事要旨

- 1 日 時 令和3年7月21日（水）15時00分～16時58分
- 2 場 所 佐伯市役所本庁舎5階 庁議室
- 3 出席者 (会議の構成員)
- | | | | |
|------|-------|------|--------|
| 佐伯市長 | 田中 利明 | 教育長 | 宗岡 功 |
| 教育委員 | 岩佐 礼子 | 教育委員 | 平井 國政 |
| 教育委員 | 小寺 香里 | 教育委員 | 山口 清一郎 |
- (関係者)
- | | | | |
|------|------|----------|-------|
| 防災局長 | 内田 浩 | 防災危機管理課長 | 野崎 弘和 |
|------|------|----------|-------|
- (教育委員会)
- | | | | |
|------|--------|--------|-------|
| 教育部長 | 渡邊 和彦 | 学校教育課長 | 石井 睦基 |
| 参事 | 向暁 真由美 | 指導主事 | 吉田 康彦 |
- 佐伯市立彦陽中学校 校長 井原 伸一郎 ほか生徒2人
- (事務局)
- | | | | |
|--------|-------|--------|-------|
| 総合政策部長 | 清家 辰治 | 政策企画課長 | 須山 禎宏 |
| 総括主幹 | 末永 健二 | 主任 | 山本 愛子 |

4 要 旨

次第1 市長あいさつ	
市 長	<p>(開始 15時00分)</p> <p>会議開催にあたり、事前に教育委員に、女島避難タワー、長島防災高台を視察してもらい、児童生徒が実際どのような場所に避難するのか現場を確認いただき感謝している。</p> <p>総合教育会議は平成27年から始まり、今回で11回目。総合教育会議は市長と教育委員で教育政策に関する協議をする場。直面する教育課題について、テーマを見つけながら課題を共有する。今回は特に、30年以内に80%の発生確率といわれている南海トラフ大地震、また豪雨災害、台風等もあるので防災教育をテーマとした。令和3年には安全教育について総理大臣賞の評価を得た、佐伯の中でも防災教育の進んでいる彦陽中学校の生徒と校長に来てもらい、現場の防災について声を聞く。防災教育に係る政策について、皆さんから忌憚のない意見を伺いたい。</p>

次第2 協議事項	
吉田 指導主事	<p><佐伯市内小・中学校の防災教育について説明></p> <ol style="list-style-type: none"> 1 教職員研修 2 避難訓練・地域との連携 3 彦陽中・八幡小の取組
彦陽中校長 ほか生徒2 人	<彦陽中学校の防災学習 平成29年度～令和3年度 5年間の取組について説明>
市長	<p>素晴らしい発表をありがとうございました。 委員のみなさんから、生徒たちに一言お願いしたい。</p>
小寺委員	<p>相手に合った伝え方を心掛けていたのがわかった。自分自身も、経験のない災害時にどうしたらよいか考えながら聞いた。例えば暑い日に、お年寄りが避難所で熱中症になったら助けられるのかなど、今後ぜひ学習を進めてほしい。</p>
山口委員	<p>津波、地震、風水害などの危機管理に対する意識付けがとても大切。インフラをどう考えるかが大事。とてもわかりやすくまとめられていた。 学習を在校生につなぎ、自分たちも社会人になっても防災意識を持ち続けてほしい。継続は力になる。</p>
教育長	<p>小4から学習を続け、気づきを得てきた。普通はそこで終わるが、中2・中3と新しい学びができています。後輩につなげてほしい。</p>
岩佐委員	<p>何年もかけて仲間と主体的に考え、行動を起こしているのが素晴らしい。 新しい避難地は、山の方に逃げられるという柔軟な発想がよい。ゆくゆくは山の道が整備できるとよい。</p>
教育部長	<p>今後自分たちが高校・大学に進学しても、社会人になって職場でも、災害のリスクはあるものだ。学習が生かされる。</p>
市長	<p>災害は死と対峙するもの。南海トラフ大地震が起こると佐伯市は8,600人の死者が出ると想定されているが、一人も死なせたくない。 ぜひ家庭内で防災の話を。今日の発表を政策に生かしたい。</p>

	(写真撮影、生徒(2人)退席、休憩)
市長	現場を見てきた教育委員の皆さんから意見があれば。
小寺委員	初めて津波避難タワーなどに登ったが、きれいに維持管理をしていただき感謝。実際の災害時に、聴覚障がいの方などに対し、視覚的に判断できる情報を与えられないか。 車いすの方が避難タワーの上階に逃げる場合はどうするのか。 災害時に体調不良となることも考えられるが、備蓄庫に血圧計はあるか。
防災局長	市が無料で貸与する「防災・行政ラジオ」は、災害時にランプが光るので視覚的に判断できると思う。 車いすの方に対応するスロープは施設整備上困難であったため断念。個別避難計画を立てて、地区内の方が対象者を担いで逃げることになる。 体温計などは地区が整備することもあるが、コロナ備品と併せて血圧計も配備を検討したい。
岩佐委員	事前準備が大切だと感じた。東日本大震災と同じレベルの災害が起きたとき、行政機能をどう残すのか。データのサーバなどは。
防災局長	市町村間、知事会で協定を結び、行政機能を残す工夫をしている。データのバックアップは毎日県外に取っている。
教育長	事前復興の考えが大事。災害が起きて校舎が損壊すると教育活動ができない。例えば海側の学校の子どもたちを、山側の学校へ、事務手続きなしで転校できるような要綱を作りたいと考えている。
市長	地域と学校間で防災協定はあるのか。
彦陽中校長	ない。地域の好意の域を出ない。
市長	市の防災ラジオは各学校にあるのか。
教育部長	全校、職員室に配置している。

岩佐委員	電気がある想定での施設が多いが、停電時はどう対応するのか。
彦陽中校長	自家発電機を整備している。
山口委員	番匠川の氾濫時の避難にも高台はよい。中津市では、2,000年に一度の想定で作成したハザードマップがあるがそのとおりの災害が起こってしまった。浸水してしまうとインフラが確保されない。
防災局長	水防法が改正され、小・中河川、下水、高潮など水に関するすべてのことに対応してハザードマップを作り直さないといけなくなっている。
防災危機管理課長	流域治水の考え方に変わってきている。
平井委員	東日本大震災の後に仙台市を訪れ、想定を超えた被害に驚いた。想定が間違っていないか疑うことも必要。8mの高さのタワーに12mの津波が来たらどうするのか。
防災局長	当市で想定されている津波の高さは、東日本大震災後に「想定外」を加味して計算されたものである。
平井委員	津波避難タワーで孤立しないのか。
防災局長	女島地区は液状化の危険がある。まず逃げるのが大事。
平井委員	佐伯市は高齢者が多い。車での移動が必要では。
総合政策部長	平成29年の大雨の際、防災危機管理課に所属していた。実際氾濫しなかったが、番匠川が氾濫の危機になった。誰も番匠川が氾濫するなど想定していない。しかし、これからは想定を超える災害のために、ハード面の整備よりもすぐに避難行動に移す意識を持つなど、ソフト面を充実させる必要がある。
防災局長	選択肢があればいいが、女島は津波避難タワーの場所しかない。彦陽中学校にしても、屋上、一次避難所、旧避難所すべての場所にリスクはあるものである。

平井委員	防災ボートを何か所かに整備しては。
防災局長	かまえインターパークに、寄附でいただいたものを置いている。
小寺委員	離島では、防災シェルターを整備する方法もあるが、コストがかかる。
市長	<p>防災士は学校での教職員は62人ということだが、不足していると思う。</p> <p>ハード面での整備は限界がある。知識・経験が必要。</p> <p>市役所の職員は800人中400人が防災士資格を取得している。</p> <p>現場としてはどう考えているか。</p>
彦陽中校長	<p>知識があるのは大切なこと。確かに資格を持っているほうがよい。</p> <p>知識のある地域の方を招き、図上訓練を行っている。地区の避難訓練も地区により実施方法が異なるが、家庭での避難行動・防災意識につなげていきたい。</p>
学校教育課長	<p>教職員は全県での異動がある。ここ2・3年取得を促していなかったために防災士資格保有者が佐伯市で減少している。防災士資格は中学生での受験が年齢的に望ましいとされている。防災局と連携し、資格取得を推進したい。</p>
教育部長	<p>受験料等が必要なので、教育委員会での独自の予算措置を考えたい。防災士資格を取得した教員に対するインセンティブを考えている。</p>
小寺委員	<p>私立幼稚園では、ナップサックに雨合羽、お菓子類を入れて自宅から持参させ、園で保管しているところがある。</p>
学校教育課長	<p>米水津小・中学校でも同様の取組が見られる。</p>
市長	<p>今回彦陽中学校に発表いただいた取組を、小学校12校、中学校19校に波及させないといけない。市民・企業の協力を得て、市としても全ての部局が丸となり考えていかないといけないと思っている。</p>
	(終了 16時58分)

